



つも難解な数式の展開等、厳しく技術に對峙されていたお姿が懐かしく思い出されます。その後、不幸にも会社倒産の危機に直面し、職場は残る方、去る方で二分し大混乱となりました。私は悩んだ末、新たな世界での挑戦を選択しました。

気がかりなこと

大日本コンサルタント(株)

専務取締役
技術統括担当 川神 雅秀

と、斜橋の回転や曲線橋の

飛び出し現象を解析的に再現し、平成8年版道路橋示方書の落橋防止に関する規定に採用されたこと、「既設橋梁の耐震補強工事例集(海洋架橋・橋梁調査会出版)の作成に關与した」となっています。また、日本鋼構造協会耐震設計部会では、特殊橋梁等の耐震・制震技術の整備に關わる機会を与えて頂き、名城大学教

を相手に10年の遅れを取り戻すため仕事に没頭する日々で、父親失格が続きました。業務が繁忙を極める中、技術顧問の大阪大学名誉教授故前田幸雄博士から、仕事の合間に信頼性理論等の講義を受ける機会に恵まれて大変刺激を受けました。厳しいご指導の中に暖かいお気持ち一杯で、私

あったことで我々の存在価値が否定され強い敗北感を覚えましたが、早期の復旧工事に向け前例のない設計作業に懸命に取り組みました。その過程で、今後は耐震の分野で社会に貢献すべきと思いを固め、今日まで一貫して耐震技術の修得と普及に努めました。思い出し、九州大

授字佐美勉様を始め多くの先生方から親しくご指導を賜りました。私には幸い、横断歩道橋に始まり、桁構造、骨組構造、吊り構造など沢山の橋の建設や補修補強に携わった橋歴があります。ご紹介は割愛しますが、役所や住民の方と「橋」を通じて知り合い、皆様に支えて頂く中で感激を共有することが出来ました。このことが私の財産であり、誇りです。自立型技術者像を理想とする私も終盤を迎え、気がかりは、社会的使命にときめきを感じ、誇りと夢が持てるよう、建設コンサルタントの地位向上を如何に図るかであります。厳しい労働環境、対等でない立場、困難な利益確保、萎び活躍の舞台等、急速な環境変化の中で、パワー不足の我々には大変深刻な問題です。今後は、この課題にも力を尽くす所存です。次は尊敬する耐震解析研究所社長の野中哲也様をお願いします。

私と橋との出会いは、37年前、長崎大学の非常勤講師で、終生の恩師高村清博士がご勤務の佐世保重工業に入社し、鋼橋の設計を担当したことが始まりです。当時は列島改造の時代

で、職場も意気盛んな仲間が橋梁の基礎理論や先端技術の習得を競いあう刺激的環境にありました。新米の私は業務の傍ら、設計に必要な基準を理解するため専門書を集めその攻略を目指しましたが、厚い壁との格闘が延々と続きました。高村清博士からは「技術者の姿勢」についてご指導賜りました。ご自宅に伺うとい

建設コンサルタントへの仲間入りは、大学卒業10年後、現会社の大阪支社が発端となりました。鋼橋の設計は多少自信もありましたが、コンクリートや基礎構造はゼロからで、再び駆け出しに戻りました。当時は本四架橋が最盛期で、ダブルデッキトラスの

も先生のお人柄に少しでも近づきたいと思いました。先生には博士課程進学のアドバイスも頂き、学位取得の際は家庭を支え苦勞した家内に沢山のお祝いを頂戴しました。

平成7年に発生した兵庫県南部地震では、高架橋が倒壊し多数の尊い命を失いました。自然の破壊力に既存の耐震技術が全く無力で

構造協会耐震設計部会では、特殊橋梁等の耐震・制震技術の整備に關わる機会を与えて頂き、名城大学教